

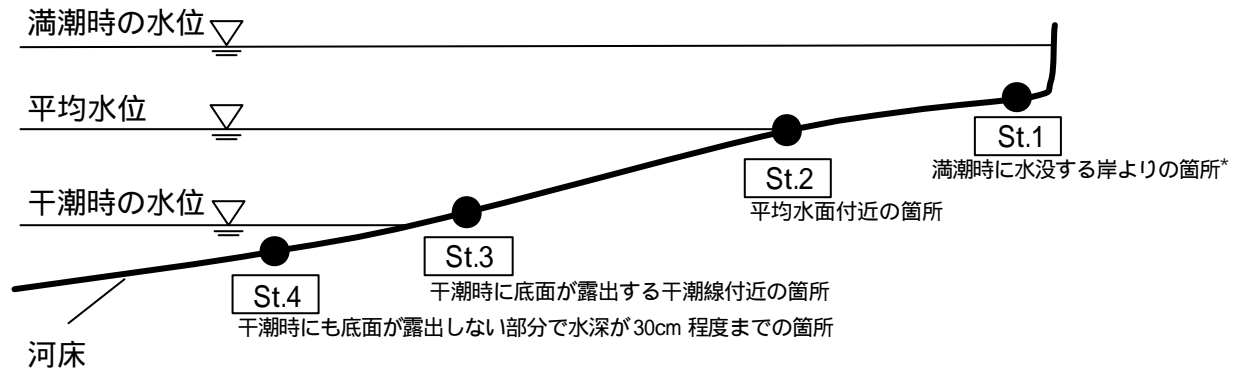
3.5 調査方法

3.5.1 底質性状

河川横断方向に任意に設定した1調査ライン上4箇所（合計24箇所）において、ハンドスコップまたは採泥器を用いて干潟の表層泥を採取しました。

採取した試料は、表 - 3.2 に示す項目について所定の方法により分析を行いました。

試料を採取する箇所の地盤の高さは、図 - 3.2 に示す位置を目安としました。



* St.1は計画においては満潮時に水没する岸よりの箇所を予定していましたが、平成15年及び16年はその位置がコンクリート護岸であったため、平均水面よりやや高い干潟部で採取しました。

図 - 3.2 底質およびマクロベントス採取箇所の地盤高の目安



< 底質の採取状況 >

表 - 3.2 底質性状分析項目および分析方法等

項目		観測方法・分析方法
現場 観測 項目	泥温	棒状温度計による測定
	臭気	現場での感応
	外観	現場での目視観察
	泥色	標準土色帳による観測
分析 項目	粒度	規格 A 1204
	比重	規格 A 1204
	pH	「環境測定分析法註解」(社団法人日本環境測定分析協会)6.4.2
	酸化還元電位	「環境測定分析法註解」(社団法人日本環境測定分析協会)6.4.3
	乾燥減量	「底質調査方法」 .3
	強熱減量	「底質調査方法」 .4
	COD	「底質調査方法」 .20
	全窒素	「底質調査方法」 .18
	全リン	「底質調査方法」 .19
	TOC	土壌標準分析・測定法(日本土壌肥料学会監修)15.A
	硫化物	「底質調査方法」 .17
	油分	「沿岸環境調査マニュアル〔底質・生物編〕」(日本海洋学会編)

備考 ・「底質調査方法」：昭和63年9月8日付け環水管第127号による調査方法
 ・規格：日本工業規格



【用語説明】

COD (Chemical Oxygen Demand)

日本語で化学的酸素要求量といいます。試料中の有機物を強力な酸化剤で酸化した時に消費される酸素量のことをいいます。

TOC (Total Organic Carbon)

日本語で全有機炭素量といいます。試料中の有機物質に含まれる炭素の量のことをいいます。

これらはいずれも、試料に含まれる有機物量の目安となり、これらの値が大きいほど有機物が多く含まれていて、一般に底質が汚濁していることを示します。

3.5.2 マクロベントス

底質性状と同じように、図 - 3.2 に示した地盤高の異なる 4 箇所（合計 24 箇所）において、ハングスコップまたは採泥器を用いて干潟の底泥とともに生息するマクロベントスを採集しました。

採集面積は、1 箇所当たり 0.1 ~ 0.18 m² としました（使用した機材により異なります）。採取した底泥を 1mm メッシュのふるいにかけて、残った生物を分析用の試料としました。試料は 10%ホルマリンで固定した後実験室に持ち帰り、種の同定、種類別個体数の計数、種類別湿重量の測定を行いました。

3.5.3 メガロベントス

堤防法面上端から調査当日の最干潮時の汀線付近までを調査員 2 名が約 4 時間かけて目視観察し、生息するメガロベントスの種類および分布範囲の概略を記録しました。

観察の対象とする生物は、大型の甲殻類（エビ、カニ、ヤドカリ など）、貝類（シジミ、アサリ など）、魚類（ハゼ類 など）などとししました。目視観察で種の同定が困難なものについてはサンプルを採集し、10%ホルマリンで固定した後実験室に持ち帰り、種の同定を行いました。



マクロベントス



メガロベントス

< マクロベントスおよびメガロベントスの調査状況 >